

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年12月20日 実施報告

参加者：親子24組（子ども30名）

担当：心理学部学生11名（プログラム実施C1班・補助C2班・受付C2班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 高木・矢崎

内容：クリスマスパ〜リ〜☆☆☆

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今日はいよいよ2023年度最後の「がくせいとあそぼう」です。そこで、クリスマスにちなんで親子で楽しめるプログラムを考えました。

まず初めに、クリスマスを題材としたペープサートという紙人形劇を行い、お子さんたちがクリスマスツリーの大きさを楽しめるようにしました。人形劇後には、大きな紙のクリスマスツリーを登場させ、お子さんたちに飾りつけをしてもらいました。いろいろな形や色の飾りをお子さんたち一人ひとりに渡すと、渡された飾りを目の前にかかげて色や形をじっと見つめるお子さんもおられました。大きいお子さんから順に飾りつけをしてもらおうと、一生懸命背伸びをしてなるべく高い所へ貼ろうとしたり、貼った後に笑顔で保護者の所へ駆け寄り、抱きついたりする様子があり、思わず私たちも笑顔になりました。そして、鈴の音と同時にサンタクロースが登場すると、子どもたちは音の鳴る方へ耳を傾け、「次に何が起こるんだろう？」と興味津々、サンタクロースに注目してくれました。一緒に手遊びをした後、サンタクロースがプレゼントを配ると、両手で大事そうに受け取ってくれました。保護者の方からも「かわいい」と言っていただし、私たちもとても嬉しかったです。今回は特別バージョンとして、プログラム後にも2人のサンタさんとトナカイに登場してもらい、風船を配ったり、一緒に写真を撮ったりして遊びました。これで今年度の「がくせいとあそぼう」は終了です。1年間ご参加いただき本当にありがとうございました！またどこかでお会いできますように！



文責：C1班 今岡、岩見、水瀬、池添、圓田、荒田

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年12月13日 実施報告

参加者：親子9組（子ども11名）

担当：心理学部学生10名（プログラム実施C2班・補助C1班・受付C1班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 下村・矢崎

内容：ゆきだるまとえんそうかい

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回のプログラムでは、音を楽しむことを目的に、音楽を取り入れた遊びを行いました。

初めに、段ボールと大玉でできた雪だるまを登場させました。悲しそうな表情の雪だるまを元気づけるというストーリーで、「雪の歌を歌って、元気づけてあげよう！」と声をかけ、「ゆきやこんこ」の歌を歌い、イラストを示しながら一緒に手遊びをしました。

次に、「雪だるまさんのお友達を作ろう！」と声をかけ、雪だるまの形のマラカスを作る遊びを行いました。あらかじめ学生が用意した小さな雪だるまをお子さんたちに渡し、マジックペンやシールを用いて飾りつけをしてもらいました。この小さな雪だるまは振ると音が鳴るようになっており、音を楽しめるとともに、素材に毛糸やフェルトを使用しているため、感触も楽しめるようになっていました。小さなお子さんでもペンを上手に握って、雪だるまのお腹の部分に丸や線を描いたり、保護者が絵を描く様子をじっと見つめたり、一緒に話し合いながらシールを選んで貼ったりと、それぞれに個性豊かな雪だるまを作ってくれました。最後に、出来上がった雪だるまのマラカスを使って、「ゆきだるまのチャチャチャ」のリズムに合わせてみんなで一緒に合奏を楽しみました。大きな雪だるまの登場に、最初はびっくりしていたお子さんたちも、徐々に近づいて、触ったり、転がしたり、音楽に合わせて叩いたり、楽しんでくれたので、プログラムに取り入れてよかったと感じました。お子さんたちが音を楽しむ様子を通して、学生の私たちも音の楽しさを再認識できました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。



文責：C2班 金田、上野、城、松浦、守口

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年11月22日 実施報告

参加者：親子 10 組（子ども 13 名）

担 当：心理学部学生 5 名（プログラム実施 B-1 班・補助・受付 B-2 班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 福本・高木

内 容：パンは好きかな～？

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

本プログラムでは、食欲の秋にちなんで、パン屋さんごっこをみんなで一緒に楽しみました。はじめに、お子さんたちがパン屋さんの世界に入りやすいように、学生が絵本『カラスのパン屋さん』の読み聞かせを行いました。いろんな種類のパンが載っているページを読んでみると、お子さんたちが寄ってきて絵を指さし「これはきつねパンだ！」「前パン屋さんに行ったよ！」と楽しそうに教えてくれました。次に、パンの手遊びを一緒に行いました。リズムに乗ってサンドイッチやメロンパンなどのパンを手で表現し、チョコパンではコチョコチョと、保護者のみなさんにお子さんのおなかをくすぐってもらいました。お子さんたちは大喜びで、床に転がったり、お母さんに抱きついたりしていました。

パン屋さんごっこでは、実際のパン屋さんを再現するために学生がコック帽をかぶり、トレーやトング、4種類のパンを用意しました。茶封筒で作ったパンを出してくると、お子さんたちはすぐに「パン」だとわかってきて、のぞき込んだり、指をさしたり、学生に「パン2コちょうだい！」と注文したりしてくれました。パン屋さんごっこが始まると、上手にトレーとトングを使ってパンを取ったり、保護者と協力してパンを手で掴んだり、次々にパンを選んでくれて、レジ係がパンを袋に入れる作業が間に合わないほどでした。

最後に、プログラムで行ったごっこ遊びと読み聞かせが発達にどのような意味があるかを説明させていただきました。パンを気に入ってくださってとても嬉しかったです。ありがとうございました。



文責：B-1 班 玉川、加藤、渥美、オウ、野上

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年11月15日 実施報告

参加者：親子 10 組（子ども 14 名）

担 当：心理学部学生 11 名（プログラム実施 B-2 班・補助 B-1 班・受付 B-1 班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 下村・矢崎

内 容：「パパ ママ だい好き♥」

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回は勤労感謝の日にちなんで、お花と「か・ん・しゃ・じょ・う！（感謝状）」を作って、お子さんからパパとママに贈るというプログラムを行いました。はじめに、お花の作成を行いました。丸く形を整えたキッチンペーパーに、さまざまな色の水性ペンでお絵描きをしてもらい、仕上げに霧吹きで水を吹きかけて、色をにじませて完成させました。お花を作るときには、素材の質感を楽しんでもらうために、でこぼこしたキッチンペーパーやモールを使用しました。お子さんたちは細い水性ペンを上手に握り、想像していたよりずっとうまく大きな丸やお花を描いてくれました。また、霧吹きはとても人気で、両手の指に力を入れて上手に水を吹きかけてくれていました。次に感謝状の作成です。絵の具を手につけて台紙に押しもらい、オリジナルの感謝状を作りました。絵の具を怖がるお子さんがいるかな？と思いましたが、むしろ積極的に手を出してくれて、絵の具の感触を楽しんだり、自分の手についた色を珍しそうに見てくれたりしていて、ホッとしました。

最後に完成したお花と感謝状を保護者の方にお渡ししました。お子さんに声をかけ、学生と一緒に「ありがとう」と言って渡しました。

「感謝状」という言葉は少し難しかったと思いますが、「ありがとう」という気持ちが伝わるとういなと思います。作成した作品はお子様の成長の記録として、見返して楽しんでいただければ嬉しく思います。



文責：B-2 班 尾上、濱本、奥田、村田、荒木関、藤本

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年10月25日 実施報告

参加者：親子9組（子ども13名）

担当：心理学部学生5名（プログラム実施A1班・補助A2班・受付A2班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 下村・矢崎

内容：くだもの狩りにいこう

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回のプログラムは、食欲の秋にちなんで、果物狩りを行いました。お子さんだけでなく保護者の方にも一緒に果物狩りを楽しんでいただけるプログラムになるよう心掛けました。

まず、果物に関するクイズを紙芝居形式で行いました。クイズが始まると、すぐに果物の名前を教えてくださいのお子さんや、紙芝居に直接触ろうと前まで歩いて来てくれるお子さんがいて、様々なしぐさで興味を示してくれました。次に果物狩りを行いました。果物狩りの説明をしている時から興味を示してくれるお子さんがいたので、私達も一緒に楽しんでプログラムを行うことが出来ました。説明のあと、果物を持っていく時には、高低差を楽しんで貰えるように工夫をしました。年齢の高いお子さんのグループにはジャンプをして果物を取ってもらえるようにネットの高さを高くしたり、年齢の低いお子さんのグループには保護者の方と協力して果物を取ってもらえるようにネットを低くしたりしました。

最後に、プログラムの目的である「指先を使って遊ぶ」ことの大切さについて説明させていただきました。お子さんたちは私たち学生が授業で学び、想像していた以上に細かに指を使って果物を掴み、私たちにも見せてくれて、一緒に楽しい時間を過ごすことが出来ました。この貴重な経験を大切にしたいと思います。

果物いっぱい夢いっぱい！



文責：A1班 寺田、小田、櫻井、久保田、小林

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年10月18日 実施報告

参加者：親子4組（子ども5名）

担当：心理学部学生6名（プログラム実施A2班・補助A1班・受付A1班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 下村・福本

内容：ウサギになってお餅をペッタン！

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回のプログラムは、お月見にちなんでウサギのお面作りと、お餅つきを行いました。

はじめに、うさぎに扮した学生が「みんな、お友達になってくれるかな？」と導入を行い、ウサギのお面とクレヨン、学生による手作りのシールを使って、お子さんとお母さんに自由にウサギのお面を作ってもらいました。お母さんの真似をして色塗りをする子どもさんもしれば、お母さんと一緒にシールを張り付けるお子さんもしました。皆オリジナルの可愛いお面を作ってくれました。

次に、お子さんたちにウサギのお面とウサギのしっぽを身に付けてもらい、一緒にお餅つきをしました。本物そっくりに作った臼と杵で、白い綿で作ったふわふわのお餅をついたり、こねたりしました。一人でつきに来てくれる子もしれば、お母さんと一緒にお餅をこねている子もいて、楽しんでくれている様子が見てとれました。

最後に、皆でお月見を楽しみました。親子で顔を見合わせてお餅を食べるふりをする様子は、見ていて心が温かくなりました。

プログラム終了後に、目的である見立て遊びについて説明しました。お餅をつくことやウサギになりきることで見立て遊びを楽しんでくれている様子が見られて、時間をかけて準備したかいがありました。少しでもお子さんの成長につながればと思います。

輝かしい未来に向かってぴょんぴょんぴょ～ん！🐰



文責：A2班 中村、杉井、岡田、坂田、日山、村上

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年7月19日 実施報告

参加者：親子 19 組（子ども 21 名）

担 当：心理学部学生 11 名（プログラム実施 C2 班 / 補助・受付 C1 班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 福本・高木

内 容：絵本で遊ぼう！『ぼくのくれよん』

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回は絵本『ぼくのくれよん』を用いて、色を使った遊びを企画しました。初めに絵本の読み聞かせを行い、絵本から主人公のゾウが飛び出してくるという設定で寸劇を行いました。大きなゾウの絵を見せると、お子さんたちは身を乗り出して見てくれていました。

読み聞かせ終了後は、『どんないろがすき』を学生と一緒に歌いました。お子さんたちはリズムに乗って体を揺らしたり、学生の差し出す 4 色の色画用紙を指さしながら「〇〇色が好き」と教えてくれたりしていました。

次に、7 種類の果物の塗り絵から好きなものを選んでもらい、16 色のクレヨンを使って塗り絵遊びをしました。クレヨンをはじめて見るお子さんもいて、珍しそうに眺めたり、保護者や学生に色の名前を聞いたり、クレヨンを小さな手で握って果物に色を塗ったりしていました。果物の塗り絵を完成させた後、丸い大きなボールに完成した果物を入れてもらい、大きなボールを中心に 2 重円となって、『フルーツポンチ』を踊りました。小さなお子さんは保護者の方に抱っこしていただき、自分で歩けるお子さんは、学生と手をつないで、ボールの前に輪になって、小さくなったり大きくなったりしながら“フルーツポンチ”を作る踊りを一緒に楽しみました。

プログラム中、塗り絵を虹色に塗ってみたり好きな色で輪郭をなぞったりと、学生が思いつかないような遊び方で楽しむお子さんもおられ、お子さんの色への関心を深める機会となったのではないかと思います。学生にとっても学びの多い企画となりました。参加していただいた皆様、ありがとうございました。



文責：C2 班 城、松浦、守口、上野、金田

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年7月12日 実施報告

参加者：親子10組（子ども13名）

担当：心理学部学生6名（プログラム実施C1班 / 補助・受付C2班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 下村・矢崎

内容：うちわに花火を咲かせよう！

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回のプログラムでは、夏にちなんで、うちわに花火の模様を描く遊びを行いました。

「夏といえば・・・」と、季節についてお話から始め、大きな花火の写真を見てもらいました。お子さんたちは花火の写真に近づいて、手で触ったり、「これなに？」、「きれいだね」と言ったりして、興味を持ってくれているようでした。中には花火の写真をじっと見て、指で光の粒をつまもうとしているお子さんもいました。

次に、うちわに花火を描く遊びを行いました。花火を描く素材として、指絵の具とスタンプ、シール、マスキングテープなど、複数用意し、お子さんに自由に選んでもらえるようにしました。初めて絵の具に触れるお子さんもいましたが、最初は恐る恐る、徐々に大胆に、絵の具の色や感触、混ざり具合を楽しんでくれているようでした。絵の具以外にも、スタンプで手形や足形をうちわに押ししたり、シールとマスキングテープを指でつまんで交互に貼り付けたり、色々組み合わせて花火を表現し、素敵なうちわを作成していました。

うちわが完成した後、うちわを使って、ミニ花火大会を開きました。「花火がパンパンパン！」という歌に合わせて、手を叩いたり、うちわを叩いたりしました。

最後に、本プログラムの目的である、絵の具の感触を楽しみながら指先を使った遊びをすることと、夏を感じてもらうことについて説明しました。作成したうちわはご自宅で使っていただき、今日のことを思い出してもらえると、とても嬉しく思います！



子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023 年 6 月 21 日 実施報告

参加者：親子 9 組（子ども 9 名）

担 当：心理学部学生 6 名（プログラム実施 B-2 班 / 補助・受付 B-1 班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 下村・福本

内 容：サンドイッチを持ってピクニックに行こう！

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回はサンドイッチの絵本を使い、サンドイッチを作ってピクニックに行くというプログラムを行いました。

始めに、サンドイッチの説明をしながら、サンドイッチの写真を見てもらいました。お子さんたちはサンドイッチのカラフルな具材を指差したり、「あ！」と声を上げて写真に駆け寄ったりと、興味を持ってくれた様子でした。

次に、「サンドイッチ サンドイッチ」という絵本を読みました。美味しそうな写真や色々な手触りの具材を用いて、身近な食べ物の作り方を学ぶ食育を目的としました。絵本に出てきた具材の名前を問いかけると、お子さんたちは元気よく答えてくれました。読む際は、物語と問いかけでの声色を変え、メリハリをつけてお子さんの注意を引くことを意識しました。

読み聞かせの後、一緒にサンドイッチを作りました。サンドイッチの具材にはフェルトやマジックテープを使用し、色々な触感を楽しんでもらえるようにしました。お子さんたちは上手に具材を挟みこみ、サンドイッチを完成させて、保護者や学生に「どうぞ」と言って渡していました。

サンドイッチを完成させた後は、ピクニックです。ピクニックに行こう！と声をかけ、保護者の皆様に協力いただいてピクニックマーチを踊りました。お子さんたちは音楽に合わせて元気に足踏みをしていました。

最後に、プログラムの目的である食育と触覚遊び、模倣遊びについて説明させていただきました。どれも子どもの発達に欠かせないものであることを、遊びを通してお伝えできたらと願っています。



文責：B-2 班 尾上、瀨本、奥田、藤本、村田、荒木関

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年6月14日 実施報告

参加者：親子 15 組（子ども 16 名）

担 当：心理学部学生 6 名（プログラム実施 B-1 班 / 補助・受付 B-2 班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 福本・高木

内 容：てるてる坊主で晴れになれ～！

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

本プログラムでは、梅雨にちなんで「てるてる坊主」づくりをみんなで一緒に楽しみました。

最初に、学生が「雨が好き？」「晴れが好き？」と聞くと、お子さんたちは「雨が好き」と大きな声で答えたり、好きな方に手を挙げてくれたりしました。また、子どもたちは飾りつけのアジサイやカエルに向かって指を指したり、注視したりと様々な反応を見せてくれました。工作を始める前に見本のてるてる坊主を見せて回ると、珍しそうに眺めたり、手を伸ばしたりする様子があり、少しずつ、てるてる坊主づくりに関心を高めてくれているようでした。

てるてる坊主の材料は、お子さんに感触を楽しんでもらえるように、やわらかいフェルトとパリパリと音の鳴るセロハンを使いました。てるてる坊主の顔の部分は、「顔」であることがわかるように丸い画用紙を用意しました。お子さんたちは、てるてる坊主の頭を丸めたり、セロハンで包んだり、出来上がったてるてる坊主を握ったり、手触りを楽しんでくれているようでした。顔を描くときは、保護者と一緒にクレヨンを選んで「お鼻どうする？」など相談し合いながら個性あふれるてるてる坊主の顔を描いていました。

今回は、てるてる坊主づくりを通して、指先を使う遊びを行いました。お子さんと保護者の方が協力し、完成したてるてる坊主は個性豊かでとても可愛かったです。天気が良くない日には、完成したてるてる坊主を飾っていただけたら、学生一同大変うれしく思います！！当日にご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



文責：B-1 班 玉川、加藤、渥美、笹部、オウ、野上

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」

2023年5月24日 実施報告

参加者：親子13組（子ども17名）

担当：心理学部学生6名（プログラム実施A-2班・補助A-1班・受付A-1班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 高木・矢崎

内容：絵本を使って体を動かそう！「だるまさんと」「ぐりとぐら」

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回のプログラムは、小さなお子さんもお父さんお母さんと一緒に楽しんでもらえるように、絵本「だるまさんと」と「ぐりとぐら」を用いて、体を動かす遊びを行いました。「だるまさんと」の絵本ではだるまさんの真似をしてもらい、「ぐりとぐら」の絵本では一緒にお料理を作ってもらいました。

はじめに、「だるまさんと」の大型絵本を前で広げて見てもらいながら、「だるまさんと～」と絵本を読みつつ、「ぺこっ」とおじぎをしたり、「ぎゅっ」と抱き合ったりといった、絵本の中のだるまさんの動きを真似してもらいました。お子さんたちは保護者の方とたくさん触れ合いながら参加してくれました。

次に、絵本「ぐりとぐら」の「ぐり」と「ぐら」に扮した学生が、具材を集めて料理を作るというストーリーを演じ、お料理作りをお子さんたちに手伝ってもらう遊びを行いました。ボールをどんぐりに見立てて、拾って集める遊びをしたり、フライパンに見立てた箱に卵の形のカプセルを入れてもらったりしました。学生がお手本を示すとお子さんたちは上手に真似をして、自分から手を伸ばしたり、指を差したり、手で掴んだり、いろいろな動作を楽しんでくれているようでした。

最後に、今回のプログラムの目的である「模倣運動」について説明しました。積極的に真似をしてくれてとても嬉しかったです。ご家庭でも楽しんでいただけたらと思います。ご参加いただきありがとうございました。



文責：A-2班 中村、杉井、岡田、坂田、日山、村上

子育てサロン特別プログラム「がくせいとあそぼう」 2023年5月17日 実施報告

参加者：親子7組（子ども8名）

担 当：心理学部学生5名（プログラム実施A-1班・補助A-2班・受付A-2班）

指導教員 道城・村井 / 実習助手 谷山 / 保育士スタッフ 下村・福本

内 容：こいのぼりをつくろう！

タイムテーブル

14:00～ はじまりのあいさつ、お名前呼び

14:10～ プログラム

14:40～ おわりのあいさつ

今回のプログラムは、子どもの日にちなんでこいのぼりづくりを行いました。お子さんだけでなく保護者の方にも一緒にこいのぼりづくりを楽しんでいただけるプログラムになるよう心掛けました。

まず、こいのぼりの実物を写真で見てもらいました。大きなカラー写真をお子さん一人ひとりに見せようと、手を伸ばしたり、じっと見つめたり、それぞれに違うしぐさで興味を示してくれました。次に、作り方を大きな見本画用紙を使って説明しました。こいのぼりには何色がいるか聞くと、「赤色！」と元気よく答えてくれるお子さんがいて、学生とお子さんとの間でコミュニケーションをとることもできました。

説明のあと、お子さんたちと保護者の方には、シールやクレヨンを使ってこいのぼりの「うろこ」部分を作ってもらいました。こいのぼりの画用紙いっぱいシールを一つひとつ集中して貼ることができるお子さんもいれば、クレヨンを上手に握ってグルグルと模様を描くお子さん、保護者の方に話しかけながら協力して作っているお子さんなど、様々なこいのぼりの作り方がみられました。完成したこいのぼりを持って、学生やお母さんに「どうぞ」と渡して楽しんでいる様子も見られました。

最後に、プログラムの目的である「指先を使って遊ぶ」ことの大切さについて説明させていただきました。お子さんたちは私たち学生が授業で学び、想像していた以上に細かに指を使って作品を完成させ、私たちにも見せてくれて、一緒に楽しい時間を過ごすことができました。この貴重な経験を大切にしたいと思います。

